

石垣ロータリークラブ週報

: 今月のロータリーレート \$ 1 = 112 円 :



2018-2019 年度 国際ロータリーのテーマ

- 四つのテスト
言行はこれに照らしてから
1. 真実かどうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなの為になるかどうかどうか



地区ガバナー: 松坂 順一氏「研修」と「活性化」

◆クラブテーマ『ロータリーを楽しもう!』

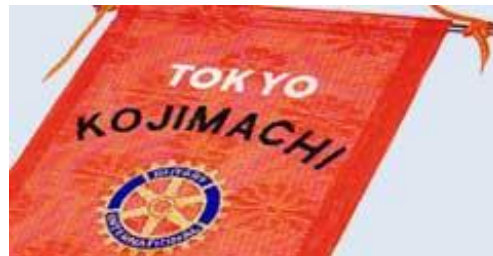
国際ロータリー第2580地区
今週のクラブ紹介

東京麹町ロータリークラブ

会長: 神保 雅敏 幹事: 飯嶋 一晃 クラブテーマ「奉仕と親睦」

例会日時: 毎週 月曜日 12:30~13:30 例会場: ホテルニューオータニ

～ 誕生 1968年6月 ～



東京麹町ロータリークラブの旗の由縁

本クラブ旧テリトリー内にある皇居と靖国神社に因んで昭和43年7月、上代の幡旗或いは戦前の天皇旗を象り、色合いは黎明を表現する曙色とし、地紋に菊と桜を配して皇居と靖国とを象徴させ、地質は伝統織物の頭文紗を用いて、デザインは奥田宗伯にお願いして制作されたものです。



池城 貞光 氏 9日 前木 繁孝 氏 19日 遠藤 正夫 氏 25日

<12月の予定> 19日(水)忘年会 26日(水)年次総会

会長: 遠藤 正夫 副会長: 橋本 孝来 幹事: 池城 貞光 副幹事: 大田 次男

例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail ishirota@ninus.ocn.ne.jp

《第 20 回 12 月 5 日(水)例会報告 (通算 2814 回)》

ゲスト卓話:海星小学校 校長 崎山 麻希 氏

<司会進行> 東上里 和広

ロータリーソング:君が代 四のテスト

ソングリーダー :黒島 剛

メイクアップ:我那覇 宗膳・小底 厚子・宮良 薫
小林 昌道・漢那 憲隆・大浜 勇人

<出席報告>

会 員 総 数:44 名 出席義務会員:42
名
出 席 数:27 名
欠 席 数 :15 名



本日のココロ

*遠藤 正夫氏:崎山校長 本日はありがとうございます。

◆BOX ¥1,000 (累計¥88,000) ◆コイン¥4,013(累計¥49,708) 合 計¥137,708

会長挨拶:遠藤 正夫



来年の国際大会、1 回目の締め切りが今週の金曜日となっておりますので、行かれる方は登録をお願いいたします。1 月に東京上野 RC 周年事業が 12 月 25 日です。調印式もありますのでより多くのご参加を宜しくお願いいたします。来週の日曜日と月曜日にピースベルアイランド・インガキ 2018 石垣島から世界へワールドピースという催し物があります。新栄公園で行います。天気は思わしくないなのでその際は市民会館になるようです。また、一般の方の参加も可能なので多くの方にご参加頂き盛り上げて頂ければと思います。先日、地区補助金プロジェクトで行きました海星小学校の崎山校長に海星小学校の生い立ちについて卓話を強引にお願いして快く引き受けて頂きました。暖かくお迎えしたいと思います

◆◆◆会員からの報告◆◆◆

プログラム・親睦委員長:黒島剛氏

こんにちは。12 月の夜間例会は 19 日となっています。場所は「シティジャック」で時間は 19:00~です。ゲストにバンドも呼んでありオールディーズです。服装はカジュアル。今回はお酒が出ますのでご家族の方は 20 歳以上での参加でお願いいたします。

ゲスト卓話:海星小学校校長 崎山麻希氏

◆テーマ◆ 日本最南端の私立小学校



皆様こんにちは。第 12 代校長を務めさせて頂いております崎山麻希と申します。先日は素晴らしいプレゼントをありがとうございました。今年は暖冬で、頂いた冷水機は毎日フル回転しております。飲むたびに「石垣ロータリークラブ様」と言いながら感謝の気持ちで命の水を飲んでいと思いますので本当ありがとうございます。お礼を申し上げます。その時にこのお話を頂きまして、子供達の前以外で話すのは小学校の教員なのに非常に不得手なんです。出来るならスルーしたいと思っていたんですけども、海星小学校という学校を知って頂く、いきっかけになるのかなと、そういった気持ちでお受けさせて頂きました。

どこの研修会に行っても沖縄県というと印象深いようで、石垣島にある海星小学校と言うと、「えー、そんな所にミッションスクールがあるの?」と驚かれます。テーマの通り「日本最南端」そして「最西端」そういった所の私立小学校についてのお話をさせて頂きます。「知って欲しいな海星小学校のこと」周りから見ると海星小学校は、どういう学校なのかよく見えないという事で、保護者の方も一旦入学すると思っていたのと違うとか、そういう学校

だったんだねと驚きの声を頂きます。私達の学校は「学校法人カトリック学園 海星学園」幼稚園とセットの姉妹園となります。学校法人カトリック学園は沖縄県に九つの幼稚園と一つの小学校の10の法人になります。その中の石垣島の海星学園、その生い立ちは戦後間もない1953年に琉球教区、今は那覇教区と名前は変わりましたが、海の星、海星カトリック教会として誕生したことに始まります。当時、記念運動場といって大正天皇のご成婚を記念する運動場があり、そこで地域のいろいろな行事をされていたようですが、そこを石垣市が水道事業を開発する為にどうしても資金が必要だという事で土地を売りに出していたようです。古い信者の方々が買い取ってその土地を教会に寄付して頂いたという事が私達の学園のそして協会の始まりになります。2年後には教会は人を育てる場所、小さい子供達、そういった幼子に人間としての価値、尊厳を植付けたいという事で、まずは幼稚園が開園いたしました。その次、1964年今から54年前に小学校が開校いたしました。今の大川保育所側の敷地に御聖堂が建ちました。御聖堂の一角を幼稚園の教室として使ったのが始まりです。その後、最初に幼稚園の園舎として造られたのは1階建てでした。職員室と幼稚園の3教室で始まりました。当時、海星小学校が生まれた時に働いていた方々にペトロ神父様、初代の校長はエリザベスマリー石田シスター、京都の方からお手伝いに来て下さいましたシスターで、今もお元気でいらっしゃいます。汚れなき御心のフランシスコ聖マリア姉妹の沖縄独自のシスター達、そういった方々が私達の学校の根っこを植えて下さいました。今も続いています。子供達が学校内外で頑張った事、賞を貰った子供達をみんなの前で一緒に喜びを分かち合うという伝達表彰式等も行っていました。4年生の学年が誕生すると教室が足りなくなったので1階に一部屋、2階部分に増築をして見慣れた海星小学校になりました。当時は体育館もなくバスケットも運動場でプレイしていたと聞いています。創立25周年を記念して体育館の建築が始まりました。もう30年位になるのですが雨漏りもせず今も現役で頑張っています。創立50周年を記念して新しい校舎を建て替えるという事で動きが始まりました。子供達総動員で一番古かった校舎、築63年になる図書室からいろんな物を運ぶ作業もしました。働く事に喜びを感じるというのが私達の大事なポリシーですが、子ども

たちが楽しそうにかけ声をかけながら片付けをしていたのが印象的です。1年前の11月3日に落成、祝賀という事で新しい校舎になりました。そして皆様には、私達がケアしきれなかった部分の大切な備品を頂戴いたしまして感謝しております。人口5万人にも達していない所で生まれた理由として、創立者のペトロ神父様の想いがあります。ペトロ神父様は今も川崎の方でご活躍されていて本を出したり、講演活動を行っていると聞いています。その神父さんとある一人の信徒の方との話し合いから私達の学校が生まれる事になったそうです。その方は病気がちで世で活躍する事が出来なかったんですが、一人一人に自分が生きて大丈夫なんだよ、愛されている存在なんだよという事を伝える学校を作って欲しいという事をペトロ神父様に相談したんだそうです。これが1962、3年の頃だという風に聞いております。でも神父様は「難しいんじゃないか、こんな小さな所で」という気持ちもありながらその信者さんの熱意に押され那覇にいる司教様に相談した所、その司教様が「やってみようか、やりなさい」とまさかのGOサインが出て石垣の地に海星小学校が生まれた訳です。私達の建学の精神にもなる、自分の尊厳を自覚し命を大切に生きる人間の育成という事を大きな柱にしております。自分の命、同じように相手の命を大事にする事。そして良い物、美しい物、本当の事といったものを求めて生きる人間を育てたい。特に今、情報化社会で価値観が多様化している中で本当に価値のある物を自分で見極めて求めて行くという事を大事にしております。そして何よりも一人ひとりが神様に愛されて生きているという事。神様とご両親の愛でこの世に生まれて来たという事を日々感じて生きる、そういった人間を育てたいという創立者の想い、創立者を動かした一人の方の言葉、今でも脈々と受け継がれている精神です。教育目標として三つありますが、1学期に「探求」というのを主に勉強します。求める事、探し続けるという事。そして2学期は特に「忍耐」。最近では忍耐力が無い、我慢する力が弱くなっていると言われておりますが、2学期の色んな行事の中で我が儘を押えたり、やりたくないけど取り組んだり教育の中で学んで行きます。そして3学期は共に生きるという「共生」です。これは自分の好き嫌いだけで、目の前の人々だけではなくて時間や空間を超えた全ての人々、全ての生き物と一緒に生きるとい

った目標を持って活動しております。中でも一番大事にしているのは【友愛】友を愛するという精神です。そして何に繋がっているか私達はイエス様の愛に繋がっており、互いに愛し合う。人間界に根ざした心の育成というのを目指している学校だという事をご承知おき下さい。校舎も新しくなり、次の50周年に向けて取り込んでいきますが、これからの教育というのはどういう風になっていくのだろうかと考えていくと、まず少子高齢化による社会活力がだんだんと元気がなくなっていくとか知識基盤そういった社会からの移行、今、知識とはインターネットを開けば何でも欲しい情報は手に入りますが、物知りが敬われた社会からそうでない社会に変わって行くだろう、そして雇用環境が違ってきます。私達はPCやロボットを使っていますが、これから生きる子供達はAIと一緒に働く、もしくはAIが上司になるといったように雇用環境も変わってくる。それから社会全体の繋がりの希薄化、今、私は新川の方でアパート住まいをしていますが隣の住人が引っ越した事も知らなかった、そういった社会の繋がりがだんだん薄れていってしまうという、そういうように教育も社会全体の中で色んな課題、私達が子供の頃には無かった課題が出てくるだろうと考えています。躰やマナーの欠如、人としての挨拶そういった事がなかなかトレーニングされないまま育っていく、犯罪が低年齢化してくる、ネット犯罪も中学生までおびえてきていると聞いています。自尊感情、私は私でOK!というような自尊感情が低くなり、卑屈になったり衝動で動かされたりとか、そういう風な事がこれから生きる子供達の課題になってくるのではないかと思います。社会を見つめて行くとかこれまでの教育は先導する先生がいて、リーダーがいてその指令に従ってみんなと同じ方向を見て同じような作業をする、そういった教育のイメージから、これからは何をすべきかそれぞれが考えます。そして出来る事を即座に判断し行動をする。そういう人材を育てるべきではないかと。江戸時代のような天下泰平の世の中ではなくて、言葉は違いますが明治維新の時のような何が起こるか分からないといった時代を前にした時に、どういう風にご子供達を導いていくべきか、どういう力を育てて行くべきかという事を私達は考えます。これからの子供達に求められる資質や能力、それは学びに向かう力、まず自分で学ぶという能動性、豊かな人間性、どのように社会と関わってより良い人生を自分で創っていくか。そし

て知恵も大事です。何を覚えているかではなくて何を理解しているか、そして何が出来たのか。判断力、表現力、理解している事や出来る事を何に使うのか、どう伝えていくかという所で私達は基礎として学力と健やかな体として豊かな心、それから粘り強く諦めずにやっていく力をつけていきたいと考えています。そういった力をつける為にはどういう風な手立てが必要かと言うと、主体的でまず自分が学ぶという事。そして自己完結型ではなくてお互いに学び合うという事。深い学び、深い学びとはちょっと漠然としています、例えば図形の定義、三角形というのは3本の線で囲まれた図形、直角三角形というのは、そこに一つの直角がある三角形。そういった定義をこれまでは先生方が指導していましたが、これからは自らその定義を見つけていく、それを私達はアクティブラーニングと言います。アクティブラーニングは、ちょっと先走りしたので指導要領の中から削られていく事になりましたが、必ずしもグループで話し合っ

て活動しているというのがアクティブなラーニングではなくて、大学のような講義形式ではなく、学んでいる人の自発的な探求という学習方法がこれからの子供達を育てる上で大事ではないかと思っております。去年から週に1時間ですが、試験的にアクティブタイムを設け、国語でも算数でもなんでもない、考える事や伝える事、表現力に特化した試みをしています。その中で学年の枠を超えてグルーピングをしたり、自分から進んで何かを生み出していき、そういった子供達を育てて行きたいと思っております。ドライバーズ効果という言葉をご存じでしょうか？運転する人は助手席に座っている人よりも道を覚えやすいという事です。これが私達が考えるアクティブな脳、自分が主体となって脳が活性化していく、そういった事で子供達の脳が閉じた脳から開かれた脳になっていくのではないかと考えています。これから生きていく子供達に必要な学び、思考力を付けていくことは、ただ覚える事ではなくコミュニケーション能力、自分が言いたい事、相手の言いたい事をきちっと受け止めるということです。その中でこだわっているのが【友愛タイム】という全学年、異学年の縦割り学習です。その中で関わり合い方を学びます。一つのグループに15、6名で兄弟姉妹のように関わっています。上の子は下の子に作業の手順を教えていく、下の子は上の子に尊敬の念をもって高学年の言葉に従う。そしてレクリエー

ションも楽しむ。自分だけ楽しむだけではなくて他者を楽しませる。その為には自分が楽しまなければ本当の喜びは生まれない。そういう事をレクリエーションを通して学んでいきます。最後にカトリックとは何だろうという事をお話したいと思います。普遍、変わらないということです。白黒時代の写真ですがウサギさんを可愛がっている写真です。今でも生き物を大事に可愛がっています。子供達の心は変わりません。そして鼓笛隊を先輩から後輩に引き継いでいく。これも55年経っても変わらず行われています。卒業式もお世話になった低学年がお姉ちゃんにおめでとうの気持ちを伝えにいく。これも50年経った今も行われています。子供達の置かれた環境は刻々と移り変わって行きますが、人間としての在り方はそう変わるものではない、心の豊かさを私達はこれか

らも見続けていきたいと思っています。私達のような学校をミッションスクールといいます。ミッションを日本語で言うと使命です。では私達の使命は何か、子供達の輝く瞳、その瞳の輝きを消さないように導くという事。そして一人一人が愛された存在だということを感じて心に刻んでここから巣立って行く。それが私達のミッションではないかと思っております。ペトロ神父様は今でもヒョッコリ現れて子供達にお話をしたり、手品をして楽しんで行かれます。これからもそういった学校で在り続けたいと思っております。変わる物と変わらない物をしっかりと見極めて、人間として大事なものは何なのかという事をこれからも子供達と一緒に考え続ける学校でありたいと思っております。

ご静聴ありがとうございました。



～ 例会風景 ～



ペトロ神父様
初代校長エリザベスマリー石田シスター(左から二番目)



職員室と幼稚園の3教室で始まりました。



現在の海星小学校 崎山校長

ありがとうございました。

